

石川県立小松商業高等学校 平成29年度学校評価最終報告

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策）
1 進路の保証と質の向上 進路指導の充実を図る。 進路に応じた個別指導体制の充実を図る。	① 指定校推薦や資格取得により、国公立大、有名私大への進学希望者に個別指導等を行い、希望進学先への実現を目指す。	志望校への進学が実現した生徒の割合が A 90%以上であった。 B 80%以上90%未満であった。 C 70%以上80%未満であった。 D 70%未満であった。	C以下で指導体制の見直し	A 3年生の進学希望者は、79名/158名の50%である。国公立大学及び全国商業高等学校商業特別推薦の活用、有名私大の指定校の開拓などにより全員が志望校へ進学することができた。満足度も生徒99%で保護者97%であった。
	② 求人確保、特に事務職求人増加を図り、希望する業種、職種への就職を目指す。	就職内定先に満足している生徒の割合が A 90%以上であった。 B 80%以上90%未満であった。 C 70%以上80%未満であった。 D 70%未満であった。	C以下で改善の検討	A 3年生の就職希望者は、79名/158名の50%である。県内求人企業数は、8月の現時点で392件であり、求人倍率は非常に高い状況のなか、早々に就職希望生徒全員が企業より就職内定を受けた。満足度も生徒97%で保護者は93%であった。
学校関係者評価委員会の評価	・3年生全員の進路先が決定し、その半数が進学であり、以前とは進路希望の傾向も変化してきているなか、学校としてしっかり対応し年々実績を上げてきている。 ・進路先への満足度も、就職希望者・進学希望者共に90%を超えており、今後も生徒の進路実現に取り組んでもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・商業高校としての進路指導体制の充実と大学・企業開拓を進め、質の高い進路保証に取り組んでいきたい。 ・就職に関しては景気に左右されやすい面もあるが、確実な求人確保に努めていきたい。			
2 人間力並びに社会人基礎力の育成 基本的な生活習慣の確立、部活動の奨励、キャリア教育の充実を図る。	① 商業教育の質の保証として、資格取得の向上を図る。全商1級3種目以上取得者の増加を目指す。	3年生の全商1級3種目取得者が A 100名以上であった。 B 80名以上100名未満であった。 C 60名以上80名未満であった。 D 60名未満であった。	C以下で指導体制の見直し	B 昨年は、3年生の全商1級3種目取得者が17名増加し88名であった。今年は98名であり、100名にはわずかに届かなかった。
	② 明るく元気なあいさつを身につける。	学校生活で「積極的にあいさつ」をしている生徒の割合が A 90%以上であった。 B 80%以上90%未満であった。 C 70%以上80%未満であった。 D 70%未満であった。	C以下で指導体制の見直し	A 昨年後期99%、今年度は前期・後期ともに98%の結果であった。
	③ 遅刻者ゼロ運動を継続しST無遅刻150日以上を目指す。	S Tの無遅刻の日が A 150日以上であった。 B 125日以上150日未満であった。 C 100日以上125日未満であった。 D 100日未満であった。	C以下で指導体制の見直し	A 今年度も「無遅刻150日」を達成することができた。今後も生徒に目標と意識を持たせ継続していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・「挨拶」や「時間厳守」は学生生活以上に、社会に出てから更に大切なことであり、成果が出ている。特に「無遅刻150日」は素晴らしい結果である。「挨拶」においても今後とも継続し「質」を高めてもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・現状に満足することなく、「遅刻ゼロ運動」や「質の高い挨拶の励行」を柱とし基本的な生活習慣の確立に努めていきたい。			
3 入学志願者の増加 中学校へ本校の特色・魅力等の情報発信を積極的に推進する。	① ホームページの更新や報道を活発に行い校外にタイムリーな情報発信をする。	年間、ホームページ更新及び報道による情報発信が出来たか。 A 100回以上であった。 B 80回以上100回未満であった。 C 60回以上80回未満であった。 D 60回未満であった。	C以下で改善の検討	A 昨年はホームページを91回更新し、新聞等の42回報道され、地域にタイムリーな情報発信が出来た。今年度も主だった更新は75回を超え、新聞には学校名が230回を超えて記載された。
	② 体験入学の参加数の増加を図る。	年間の体験入学参加数が。 A 450名以上であった。 B 400名以上450名未満であった。 C 350以上400名未満であった。 D 350名未満であった。	C以下で改善の検討	A 昨年は、380名の参加であった。今年度は夏に409名、秋には73名、合計482名と定員の3倍の参加者であった。
学校関係者評価委員会の評価	・体験入学への参加者数が大幅に増え、入試の出願倍率も上昇した。今後も本校の魅力を感じ、多くの中学生が入学を希望するよう、情報発信に取り組んでもらいたい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・「学校の見える化」にむけ、ホームページや報道機関の活用、中学校へのアプローチ活動など、本校の特色や魅力などの情報を積極的に発信していきたい。			

4	「学びの力」向上 生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指す。 指導力の向上と授業改善に努める。	① 指導法の工夫・改善に取り組み「わかる授業」を実践し、学習意欲の向上を図る。	「授業がわかる」という生徒が A 90%以上であった。 B 80%以上90%未満であった。 C 70%以上80%未満であった。 D 70%未満であった。	C以下で改善の検討	B	「授業がわかる」と答えた生徒が昨年前期85%であり、今年度前期は81%であったが後期では85%と上昇した。
		② 「言語活動」を取り入れた授業を推進する。	言語活動に重点を置いた授業を展開している。 A よくできた。 B 概ねできた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	Aが70%以下で改善の検討	A (8%) B (55%)	一昨年前期53%、昨年前期59%、今年度は63%と徐々に増加し、言語活動の定着が見られてきた。今後も言語活動を取り入れた授業を積極的に取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価		・生徒の8割以上が「授業が分かる」と答えたことは大変高い評価を得ており、判断基準の見直しが必要と思われる。 ・他者の意見を理解し、自分の考えを伝えることは社会に出ても大切なことであり、今後とも言語活動に取り組んでもらいたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・授業改善に向け授業評価等を分析し、わかる授業の向上に努めていく。 ・言語活動を取り入れた授業も徐々に定着しており、今後も積極的に取り組んでいく。				
5	地域・保護者との連携強化 学校行事や地域イベントを通じて地域との連携の強化を図る。 PTA活動や情報発信による連携の強化を図る。	① 生徒が積極的に、主体的に取り組むようはたらきかける。	地域や町内のイベントに参加した生徒の割合が A 70%以上であった。 B 60%以上70%未満であった。 C 50%以上60%未満であった。 D 50%未満であった。	C以下で指導体制の見直し	C	「参加した」と答えた生徒は55%であった。また「参加する機会がなかった」と答えた生徒が22%であった。
		② PTA活動など通じて情報提供を行い、教育活動の理解を図る。	学校からの情報提供が、教育活動を理解するうえで役立っている保護者の割合が A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	C以下で改善の検討	A	役に立っていると答えた保護者が8割を超えたが、今後とも学年通信やメール配信などを活用し、保護者への情報提供に努めていく。
学校関係者評価委員会の評価		・地域や町内のイベントに参加した割合は目標には達成していないが、雪かきや軽海水の清掃は町内会でも喜ばれている。 ・児童館のイベントにインターアクト部、吹奏楽部、図書委員等に多数参加頂いた。来年度もぜひ参加頂きたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・多くの卒業生が地元企業で働き、地域社会で活躍している。今後も期待に応えるよう、地域に根ざし、開かれた学校づくりを目指して取り組んでいく。				